

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



インターン生と国会へ

「福島第一原発事故と町田市の くらし」セミナーに参加して



こじんまりとした会場に、会場一杯にひしめく聴衆。あたりは異様な緊張感に包まれていた。それもそのはず、「福島第一原発」。これが今日の講演会のテーマだったのだ。

吉田議員が、心血注いで作り上げた今日この日のセミナー開催。エネルギーのことを扱う団体のタンポポ舎の山崎さんをお招きし、詳しく原発問題についてお話しいただいた。他原発のこと、福島原発の背後に潜む真実、東電という組織、規制値と子ども、および食品のこと。今の「気になる」問題を見事に取り上げて頂いた、非常に内容の濃い、2時間となった。

さて、会場には多くの親ごさんやお孫さんをもつご年配の方が、つめかけていた。「国の情報を鵜呑みにしていたのでは、子どもは守れない」。そんな悲痛な想いを、皆さんの表情、質問を通じた言葉のはしばしが雄弁に物語っており、その想いが彼らを講演会にせき立てたのだろうと感じた。

「子は国の宝」そんな言葉があるが、だか

らこそ国は今子どもの増加に奮闘している。しかし今回子どもに対する、国の見事なまでの配慮のなさが露呈した以上、今後どんな美辞麗句を並べても、親が安心して子どもを産めるだろうか。「子ども、子ども」と声高に叫ぶだけ叫んで、子どもが増ても、会場にいた人たちのような表情を作らせ、人々に苦悩をさせているようでは何が国家だろう。

一刻も早く、誰よりも小さな子供たちを守ってほしい。原発に責任のない子どもを絶対見捨てないでほしい。そして、今回会場にきたような親ごさんたちを安心させてあげたい。今の政策を取り仕切る年代が一番じゃない。将来の日本の担い手の未来を何よりも大切にしてほしい。こんなことを考えた講演会だった。



記：第 28 期研修生 小宮 春菜

国際基督教大学 (ICU) 教養学部 3 年生

●今回は、第 26 回セミナー(上記のタイトル)を開催した際、研修生の小宮春菜さんが受付を担当し、さらにそのレポートを書きましたので、それをもって記事としました。放射能汚染の課題は、大気から土壌や食物へと変化してきました。町田市産の農作物は、政府が決めた基準値でなく、放射性物質の含有量がゼロとする施策を検討していきます。(吉田)

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ (市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属: 志政クラブ

〒194-8520

東京都町田市

中町 1-20-23

☎042-724-2127



双方向の情報交流

町田農業が抱える問題

町田の農業は危機に立たされていると感じました。現在、日本では環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) への参加が議論されています。震災の問題もあり、今のところその議論は後回しにされていますが、もし参加が決定されたとなれば日本の農業は大きな打撃を受けることは間違いないと思います。

TPP は、貿易の自由化を実現するための協定ですから、今まで日本が行ってきたような国内の農業を高い関税で保護する事が出来なくなります。すなわち高い関税で保護されてきた国内の農業にとって、TPP の参加＝危機となるのです。こうなると海外の安い農産物が大量に国内で流通する事になり、日本の農業は大打撃を受ける事でしょう。町田も例外ではありません。

これからは国内農産物の安全面での信用を確立し町田独自のブランドを立ち上げる、などして海外農作物との差別化を図るべきだと思います。しかしそこに立ち上がるのが「放射能」の問題です。もちろん、土壌や農作物自体の放射能汚染も問題なのですが、町田市の堆肥から国が定めた基準値以上の放射能が計測され、使用が禁止されました。

農作物が肥料から吸収する放射能は、肥料に含まれる放射能の約 1/10 と言われます。その肥料から基準値を超える放射能が計測されたとなれば、その肥料を使って作られる農作物の放射能も高い値で計測されるのは目に見えた結果です。

この事は化学肥料ではなく自然肥料を使う



事によって得てきた、日本の農業の信頼を脅かすものとなりました。

以上、TPP・放射能汚染、2つの問題から町田の農業が大きな危機に立たされているという事を私は提唱したいと思います。

記：第 28 期研修生 菌部 諒
東京都市大学(旧武蔵工大) 3 年生

● 吉田自身の農業施策に関する考えについては、前回の大潟村訪問記をご参照下さい。また、町田市の都市農業に関しては、福島第一原発事故によって発生した、土壌の放射能汚染の調査と除染対策を町田市が独自に行うことが有効かつ急務と考えています。

研修生の募集について

新たに、第 29 期研修生を募集中です。

募集要綱や研修体験者のリストやレポートは下記を参照してください。検索→(インターンリスト&レポート 吉田つとむ) が便利です。＜インターンレポート記録アドレス＞
<http://j-expert.jp/tosei/int/list/main.html>

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ 第 26 回セミナー「福島第一原発と町田市のくらし」(講師：たんぽぽ舎 副代表 山崎久隆氏) の講演は、講師のご理解を得て YouTube にアップしています。一覧表 <http://j-expert.jp/shigikai/2011/houshasen/08/13.html> を参考にしてご覧下さい。

ご連絡、お問い合わせは電話・FAX、メールにて。Mail : yoshidaben@gmail.com